



Dental Blue Ocean計画
四期生
修了文集

【DBO計画/四期修了生】



2025/03/16

目次

【テーマ】

～DBO計画に参加して/これから歯科医療人として何を成すか～

Dr.秋山 恵里奈 1P

DT.神谷 畝菜 2P

DT/DH.木村 桃子 3P

～あとかき～

秋山 恵里奈
鶴見大学2014年卒業
【歯科医療の質向上に向けた学びと課題】

この度私はDBO計画に参加し、技工物の製作過程の精密さや煩雑さを体験する機会を得た。これまでも診療中に技工操作を考慮した形成等を心がけていたつもりであったが、実際に歯科技工士がどのような工程で製作しているのか、その難しさを深く理解できていなかった。本勉強会を通じ技工士の技術力の高さや、わずかな情報の違いが仕上がりに大きな影響を与えること、伝え方や聞き方により引き出せる情報量がいかに変わるかを実感し、多職種との協力が不可欠であると改めて認識した。

歯科医療は歯科技工士、歯科衛生士、歯科助手、受付スタッフをはじめ歯科材料開発の企業など多くの職種が関わり、それぞれが専門性を発揮することで成り立っている。近年歯科業界でも人材不足が問題となるなか、特に歯科技工士の不足は著しい。このまま若手技工士の減少が続けば技術が十分に継承されず、最終的には歯科医療全体の質の低下につながる事となる。歯科医師として、歯科技工士との連携を密にし適切な情報共有を行うことはもちろん、その労働環境や待遇の改善にも関心を持つ必要があると感じた。

さらに、歯科医療は日々進化しており新しい技術が次々と登場している。CAD/CAMや3Dプリンター等の登場により、新たな可能性を得た反面、これらの技術を十分に活用するためには常に知識を習得し続ける必要がある。現状維持は後退を意味し、自己流を職人技と言うのは異なる。また、自らが学び続けるだけでなく後進の指導にも関わり、業界全体の発展を考えなくてはならない。

一方で、患者さんの意識改革も重要な課題である。予防歯科の概念は広まりつつあるが、依然として「痛くなってから受診する」という考え方が根強い。実際の診療においても症状があるときのみ来院する患者さんは少なくない。治療技術を高めるだけでなく、患者さんに対し、歯と健康がいかに密接に関係しているかを理解してもらうことが重要である。

おわりに今回の勉強会を通じて、歯科医療は歯の機能を回復させるだけでなく患者さんの人生へ介入することだと改めて実感した。良い治療、補綴物は患者さんの人生を豊かにするが介入の仕方を誤れば元の状態より不幸な結果となる。その責任を理解した上で患者さんだけでなく歯科医療に携わる全ての人がWin-Winの関係となれるよう今後も研鑽を怠らず業界の発展に寄与できるよう誠実に取り組んでいきたい。

神谷 畝菜
新東京歯科技工士学校 2024 年卒業
【DBO 計画に参加して】

私は現在、自費・保険両方取扱う院内技工所に勤めていて、まもなく1年が経ちます。学校に通っていたころは国家試験の為の勉強や実技がほとんどを占め、臨床のことはあまり教えてもらう機会はなく、私の就職先を知った早川先生からは働き始めたら大変だと何回か言われ、そこから出来るだけ臨床で必要な知識や技術を勉強したいと思いこちらのセミナーに参加することを決めました。実際働き始めたら本当に大変で、今では普通に作れるようになった In・Cr ですが、学校で練習していたきれいな模型のようなものは一つもなく、イレギュラーな形や先生により支台歯の形成やマージンの出し方などが様々で先輩方いろいろな確認し不安を感じながら進めることの繰り返しでした。その中で月に一度の DBO 計画セミナーに参加して、先ず学校に通っていたころの仲間に会い、みんなの近況を聞けることがうれしく、早川先生に仕事の相談や職場の先輩に聞いたことでも気になること、時には職場の愚痴も話したり出来たことで歯科技工士を続けられていたのもあると思いました。今思うと卒業して一年がメンタル的に大変だと思うので、こういう機会を作ってくれている早川先生に感謝します。

セミナーの内容は、大事な咬合や CAD の操作などいろいろありましたが、特に印象に残っているのは口腔内写真を撮影する回があり、お互いの口腔内写真を撮影したのですが、シェードを当てながら早川先生の私物の一眼レフカメラ（フラッシュ含め約 3 kg）を片手で持ち撮影位置をキープするのが結構大変でしたが、患者側の早く終わってほしい気持ちもわかり、カメラ操作は急にちょうどいい色調や明るさにもっていくのは私にはまだ難しく練習が必要ですが、シェードテイキングのやり方は同一平面上にシェードを並べ、実際患者様の希望も確認しながらやっています。それから、早川先生の実際にあつた症例を元に患者さんへのカウンセリングや歯科医師の先生との連携、逆にそこがうまくいかず失敗したことも聞けたりしたので今後自分が気に掛けるところはどこなのかという勉強にもなりました。今回のセミナーは例年より人数が少なかったようなので、もう少し多かつたらもっと意見交換などが出来てよかつたのかなと心残りはありましたが、それでもここでの知識があつたから先輩からの説明も理解が深まり自分の仕事には有益なセミナーだったと思います。

これから歯科医療人としてまだまだ伸び代が多いので遠い未来はまだ考えられないですが歯科医師と対等に会話をし、そこからの確かな判断、助言ができ、信頼される歯科技工士になりたいと思います。そのためにこれからも勉強や技術の向上につとめ、患者様の笑顔を増やしていきたいと思います。

木村桃子

新東京歯科技工士学校 2024年卒業

【DBO計画に参加して/歯科医療人としての今後の展望】

2024年度はDBO計画に参加させていただくことができ、実りのある1年となりました。歯科技工士学校で学ぶことは臨床で使える内容というよりも、国家試験に受かるための勉強がメインとなっており、毎回セミナーを受講する度に知らなかった単語や話が次々として出てきて驚きの連続でした。

様々なセミナーや勉強会に行かないと知ることのできないであろうノウハウやテクニック、臨床を何年もやってから気が付くようなポイント、実際の症例や講演など、とても貴重なお話や勉強になるような内容ばかりで密度の濃い時間を過ごすことができました。内容のボリュームや早川先生の熱量を考えると、このようなセミナーは全国どこを探してもないでしょうし、いくらお金を払っても受けられるものではありません。

特に新卒の歯科技工士が知りたいと思うような内容のセミナーにはなかなか出会うことができず、ここまで広範囲に渡り、基礎から掘り下げていくようなものは見たことがありませんでした。

また知識や技術面だけでなく、歯科業界について、歯科技工士の本質についても学ぶことができ、他の受講生との交流からもたくさんの学びや刺激がありました。

歯科技工士という仕事に対しプライドと興味を深く持てるようになったのは、早川先生のお陰だと思っています。

卒業後の1年どう動くか、誰と出会うかが今後を決めるとおっしゃっていた意味が今なら分かります。

早川先生を見ていると、多方面に渡る知識を持つのはもちろんこと、新しく出てくる情報を取り入れていくなど、裏付けされた様々な努力によって良い歯科技工士になっていくのだと気が付きました。

また症例を通し、患者さんとの関わり方次第で技工物への満足度にも変化があるということを知り、カウンセリングや患者さんとの対話の重要性を認識することができました。

技工物と向き合っていると模型上での完成度ばかり意識してしまいがちですが、その先には患者さんがいるということを忘れない、そして技工物1つで患者さんの人生を良くも悪くも変えられる責任があるのだと胸に刻みたいと思います。

私は歯科技工士学校を卒業したものの、今後の目標や将来のビジョンが定まらずにいました。

しかしDBO計画に参加させていただいたことで、自分が何をやっていきたいか、歯科技工士としてどのように患者さんに関わっていきたいのかが見えてきた気がします。

これからも学び続けることをやめず、歯科技工士、歯科衛生士という立場で患者さんの笑顔を作り、歯科医療に貢献できる人になっていきたいです。

～あとがき～

【DBO計画】修了生へ

Dental Blue Ocean計画は、修了生の
行先を照らす灯台であって欲しい。
歯科医療人としての航海は長く険しく、
時に荒れ狂う波に飲まれる時も
航路を失う時もあるだろう。
しかしながら、そんな時は同じ時間を
高い志を共にする同志と過ごした事を
心の支えにしていきたい。
灯を頼りに自分を信じて突き進み、
まだ見ぬ新天地を切り拓くのみである。

自分を鳥に例えるならば、鳶だと思う。
猛禽類としては弱く、速くも飛べない。
しかし、風を読むことには長けている。

DBO計画修了生は、
鳶が懸命に育てた鷹に成長するだろう。
歯科医療人として、
強く高く舞い上がることを切に願う。

2025年3月16日

Dental Blue Ocean計画 代表 早川純

